

企画説明

中嶋 康博

東京大学大学院農学生命科学研究科教授

日本農学アカデミー理事

日本学術会議会員・東日本大震災に係る食料問題分科会委員長

開催趣旨

東日本大震災が起こってから12年が経ち、全国各地で復興が進んでいる。しかし、福島県では一部に帰還困難地域が残っており、耕作地の復元や担い手の育成などの課題に加え、原発の廃炉政策や処理水の海洋放出も長期に及ぶ。農林水産業の復興と食料生産を振興していく上で、多くの課題が残されている。本シンポジウムでは科学的な立場から食料生産および流通における福島県の現状と問題点を整理し、住民に寄り添った今後の復興の進め方を議論する。

これまでの経緯

— 日本学術会議の活動 —

- [22期初年：2011年12月21日] 日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会の下に東日本大震災に係る食料問題分科会を設置

【審議事項】

- 食料供給の早急回復 ※生活者と生産者（農林水産業）の視点
- 供給する食料の安全性の確保
- 食料供給に及ぼす長期的影響の解析と解決策
- 学術フォーラムの開催を中心とした分科会の活動

【活動のポイント】

※当初は実態が不明な中での科学的理解

- 科学的情報の発信
 - 学際的アプローチ
 - 多様なステークホルダーとの双方向の対話
- ※作物学、土壌学、畜産学、水産学、
経済学、リスク学、医学、栄養学

日本学術会議主催学術フォーラム



「東日本大震災がもたらした食料問題を考える」

日時:平成24年11月21日(水) 13:20~17:30

場所:日本学術会議講堂 定員:先着 300名

開催趣旨

平成23年3月11日に東北太平洋沖で発生した大地震は巨大津波の襲来をもたらし、沿岸地域の農林水産業を一瞬のうちに破壊した。さらに、巨大津波の直撃を受けて漏洩した東京電力福島第一原子力発電所の放射能は、農林水産業に対して広域にわたって長期的に多大な影響をもたらすことが危惧されている。このような背景の下、農林水産業においては安全な食料の早急な供給回復が求められている。さらに、長期的な視野に立つ食料の安全対策も重要な課題となっている。そこで、食料科学の立場から現状を分かりやすく説明するシンポジウムを開催する。

次第

- 13:20 開会の挨拶
- 13:30 澁澤 栄 (東京農工大学大学院農学研究院教授、日本学術会議連携会員)
「農地の放射能汚染の実態と除染の試み」
- 14:05 藤原 徹 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
「作物の放射能汚染とその対策」
- 14:40 渡部終五 (北里大学海洋生命科学部教授、日本学術会議会員)
「水産物のサプライチェーンの復旧・復興における問題点」
- 15:15 休憩
- 15:30 山下俊一 (福島県立医科大学副学長、日本学術会議会員)
「内部被ばくによる健康リスク;チェルノブイリの経験から福島の実状を考える」
- 16:05 中嶋康博 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議連携会員)
「食品中の放射性物質に対する消費者意識とリスクコミュニケーション」
- 16:50 総合討論 (質疑)
- 17:20 閉会の挨拶



コーディネーター

清水 誠 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議会員、食料科学委員会副委員長)
大下誠一 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議連携会員)

共催:東日本大震災に係る食料問題分科会、水産学分科会、農業経済学分科会、
農業情報システム学分科会、農芸化学分科会
後援:日本農学アカデミー、日本水産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、
農業機械学会、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコケーン

日本学術会議案内図



申込先:日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34

TEL:03-3403-6295 FAX:03-3403-1260

申込みフォーム: (<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>)

東日本大震災に係る食料問題フォーラム



平成23年3月11日に東北太平洋沖で発生した大地震は巨大津波の襲来をもたらした。この巨大津波の直撃を受けた東京電力福島第一原子力発電所は全電源喪失の事態に陥り、大量の放射能を広範囲に拡散させた。この漏出した放射能は森林、土壌、水域を汚染し、そこから生産される食料資源を汚染する結果となった。このような状況下、農林水産業においては安全な食料の供給が求められている一方、生産活動にも大きな制限が課せられており、生産者および関連するコミュニティーには大きな問題となっている。そこで、本フォーラムでは、食料生産現場の放射能汚染の現状を踏まえつつ、生産再開までの道のりと今後の課題について、実際の生産者や事業者を交えながら議論する。

参加費なし
/事前登録
先着100名

2013年 6月6日(木)13時~17時40分
於：コラッセふくしま

福島県福島市三河南町1番20号
JR福島駅西口

主催：日本学術会議農学・食料科学・健康・生活科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、
農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分会、農芸化学分科会、
農学委員会農業経済学分会、食料科学委員会獣医学分科会、水産学分会、畜産学分会
後援：日本農学アカデミー、日本獣医学会、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、
農業機械学会、福島県立医科大学、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコウーン(act72)

次第：

- 13:00~13:10 開会の挨拶
渡部終五(北里大学海洋生命科学部教授、日本学術会議第二部会員)
- 13:10~13:40 農作物の放射能汚染と今後の課題
万福裕造(独)国際農林水産業研究センター研究員(福島県飯館村復興対策課派遣)
- 13:40~14:10 水産物の放射能汚染と今後の課題
藤田恒雄(福島県水産試験場漁場環境部長)
- 14:10~14:30 畜産物の放射能汚染と今後の課題
眞鍋昇(東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議連携会員)
- 14:30~14:40 休憩
- 14:40~15:00 農業従事者からの報告
鈴木正美(矢祭町農業法人でんばた取締役)
- 15:00~15:20 漁業再開に向けた取り組み
遠藤和則(相馬双葉漁業協同組合総務部長)
- 15:20~15:40 信頼の獲得を目指した生協の取り組み
野中俊吉(コープふくしま専務理事)
- 15:40~16:10 津波・放射能汚染からの農業の復興と新たな生産・社会基盤の創造
門間敏幸(東京農業大学国際食料情報学部教授)
- 16:10~17:30 総合討論
司会 中嶋康博(東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議連携会員)
- 17:30~17:40 閉会の挨拶
濫澤栄(東京農工大学大学院農学研究科教授、日本学術会議連携会員)



申込先：東京農工大学濫澤研究室
E-mail: muroi@cc.tuat.ac.jp
問合せ：日本学術会議(TEL:03-3403-1091)

平成23年3月11日に発生した東北太平洋沖大地震から3年が経過した。巨大津波の直撃を受けた東京電力福島第一原子力発電所は全電源喪失の事態に陥り、大量の放射能を広範囲に拡散させた。この漏出した放射能は森林、土壌、水域を汚染し、食料資源の生産現場に大きな被害をもたらしたが、未だに復旧・復興への道のりは遠い。とくに陸域では住民の帰還に大きな制限が課せられ、食料生産活動のみならず、関連するコミュニティにも不安と混乱が続いている。一方、水域でも福島沖を漁場とする操業では自主規制が続いており、本格的な漁業再開にはほど遠い。そこで、本フォーラムでは、食料生産現場の放射能汚染の現状を踏まえながら、住民帰還や生産再開までの道のりとその後の課題について、実際の生産者や事業者を交えながら議論する。



東日本大震災に係る食料問題フォーラム2014

2014年7月4日(金) 13:00~17:30 参加費なし/ 事前登録先着80名

於: 福島県川内村コミュニティセンター

主催: 日本学術会議農学・食料科学・健康・生活科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会、農芸化学分科会、農学委員会農業経済学分科会、食料科学委員会水産学分科会、畜産学分科会
 後援: 日本農学アカデミー、日本獣医学会、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、農業食料工学会、東京農工大学、長崎大学、福島県立医科大学、北里大学海洋生命科学部、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコウン(act83)



- 13:00~13:10 開会の挨拶
渡部 終五(日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部教授)
- 13:10~13:30 川内村の現状
遠藤 雄幸(川内村村長)
- 13:30~13:50 農作物の放射性物質の取り込みパターン
二瓶 直登(東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)
- 13:50~14:10 福島第一原子力発電所事故によって生じた被災家畜の研究
福田 智一(東北大学大学院農学研究科准教授)
- 14:10~14:30 農作物の放射能汚染と今後の課題
万福 裕造(福島県相馬郡飯館村復興対策課研究員)
- 14:30~14:50 水産物の放射能汚染と今後の課題
藤田 恒雄(福島県水産試験場漁場環境部長)
- 14:50~15:00 休憩
- 15:00~15:20 農業従事者からの報告
鈴木 正美(矢祭町農業法人でんばた取締役)
- 15:20~15:40 暮らしを取りもどすためのコープふくしまの取組み
野中 俊吉(コープふくしま専務理事)
- 15:40~16:00 外国の目からみた放射能汚染の現状
マイケル・オーエン(トランスパシフィックエンタープライズ 代表取締役会長)
- 16:00~16:20 福島県の放射能汚染と健康リスク
山下 俊一(日本学術会議第二部会員、長崎大学教授)
- 16:20~17:20 ワークショップ(グループ討議、意見交換)
司会 中嶋 康博(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
- 17:20~17:30 閉会の挨拶
澁澤 栄(日本学術会議連携会員、東京農工大学大学院農学研究科教授)

川内村ワークショップ

東京大学農学生命科学研究科アグリコウン産学官民連携室
 申込先/問合先 e-mail: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp URL: www.agc.a.u-tokyo.ac.jp
 tel: 03-5841-8882 fax: 03-5841-8883



詳細はwebで



福島 ワークショップ

東日本大震災から4年が経過し、東京電力福島第一原発事故からの復興も新たな局面を迎えています。事故当時大量の放射能が広範囲に拡散し、森林、土壌、水域が汚染され、食料資源の生産現場に大きな被害をもたらしました。その後の食の安全モニタリングの普及により市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通していません。環境放射能レベルも確実に減少しています。しかしながら、今なお現存被ばく状況下にある地域では、日常活動への不安、帰還帰村における難題の渦中であり、食料生産活動や流通そのものは未だ復興から遠いものがあります。4回目となる本フォーラムは、食料生産現場の放射能汚染からの回復状況を科学的に検証すると同時に、福島県民に寄り添いつつ風評と風化という相反する課題に取り組み、現場の生産者や事業者を交えて議論します。



双葉郡浜田町高瀬川渓谷



2015年8月22日(土) 参加費無料/事前登録不要
 13:00~18:00 於: コラッセ福島(福島市)
 (福島市三河南町1番20号 JR福島駅西口より徒歩3分)

共催: 日本学術会議農学・食料科学・健康・生活科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学術分科会、農芸化学分科会、農学委員会農業経済学分科会、食料科学委員会水産学分科会、畜産学分科会、食の安全分科会
 後援: 日本農学アカデミー、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、農業食料工学会、日本リスク研究学会、福島県立医科大学、長崎大学福島未来創造支援研究センター、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン(act94)、北里大学海洋生命科学部、神奈川県立保健福祉大学、京都大学リスク研究ネットワーク

プログラム

13:00~13:10	開会の挨拶——渡部 終五 (日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部教授)	15:10~15:20	休憩
13:10~13:30	福島農業再生に向けての課題 ——万福 裕造 (国立研究開発法人国際農林水産業研究センター企画調整部技術促進科長)	15:20~15:40	放射能・放射線と健康リスクを考える ——山下 俊一 (日本学術会議第二部会員、長崎大学理事・副学長、福島県立医科大学副学長)
13:30~13:50	放射性セシウムの土壌中の挙動と水系への流出 ——堀沢 昌 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)	15:40~16:00	放射性物質の健康リスク:市民の知覚とリスクコミュニケーションの可能性 ——新山 陽子 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授)
13:50~14:10	原発事故に起因する放射性核種が持続可能な畜循環型農業におよぼす影響 ——眞鍋 昇 (日本学術会議連携会員、大阪国際大学教授)	16:00~16:20	復興のための栄養と食事 ——中村 丁次 (神奈川県立保健福祉大学長)
14:10~14:30	農業従事者からの報告 ——鈴木 正美 (矢野町農業法人でんばた取締役)	16:20~16:40	産地の共同作業の意義と風評被害の実態 ——数又 清市 (伊達みらい農業協同組合常務理事)
14:30~14:50	家庭の食事からの放射性物質摂取量調査結果について ——山越 昭弘 (日本生活協同組合連合会商品検査センター長)	16:40~17:50	総合討論 司会: 中嶋 康博 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
14:50~15:10	試験操業の取り組みについて ——阿部 庄一 (相馬双葉漁業協同組合 参事)	17:50~18:00	閉会の挨拶——濵澤 栄 (日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究科教授)



問合先

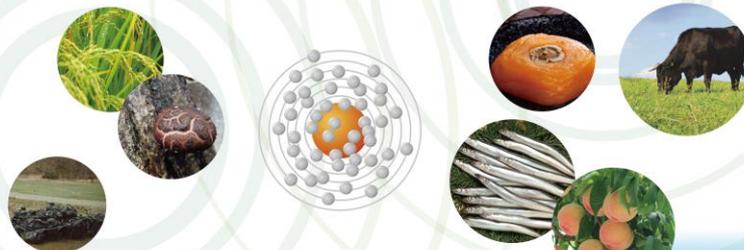
東京大学農学生命科学研究科アグリコクーン産学官民連携室
 e-mail: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp URL: www.agc.a.u-tokyo.ac.jp
 tel: 03-5841-8882 fax: 03-5841-8883



東日本大震災に係る食料問題フォーラム2016

公開シンポジウム

東日本大震災で引き起こされた東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が環境中へ放出され、森林、土壌、水域が広範囲に汚染されました。この複合災害から5年が経過して、環境放射能レベルは確実に減少しており、安全モニタリングの普及により市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通していませんが、今なお多くの問題が残っています。すなわち、安全規制をクリアした食品しか流通していないにも関わらず、消費者の中には福島県産の食料品に不安を抱く人々もいて、食料生産活動や流通の現状は未だ復興から遠いものがあります。5回目となる本フォーラムでは、食と放射線リスクコミュニケーションを中心に、福島の復興を加速するため、この問題をいかに解決するかを考えます。



2016年7月4日(月) 参加費無料/事前登録不要
13:00~17:00 於: 日本学術会議会議室

共 催: 日本学術会議農学・食料科学・健康・生活科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会、農芸化学分科会、農学委員会農業経済学分科会、食料科学委員会水産学分科会、畜産学分科会、食の安全分科会、臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント分科会

後 援: 日本農学アカデミー、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、農業食料工学会、日本リスク研究学会、福島県立医科大学、長崎大学福島未来創造支援研究センター、東京大学大学院農学生命科学研究所アグリコクーン(act103)、北里大学海洋生命科学部、京都大学リスク研究ネットワーク

- | | | | |
|-------------|--|-------------|--|
| 13:00~13:10 | 開会の挨拶—渡部 終五
(日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部特任教授) | 15:00~15:25 | 市民と食品中の放射性物質問題への取組—鬼武 一夫
(日本生活協同組合連合会品質保証本部安全政策推進部長) |
| 13:10~13:35 | 福島原発事故対応の現実と課題-私たちは福島から学べたのか—長谷川 有史
(福島県立医科大学医学部教授) | 15:25~15:50 | 地域社会と経済の復興過程—八木 信行
(日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授) |
| 13:35~14:00 | 長崎大学川内村拠点における放射線健康リスクコミュニケーションの活動—折田 真紀子
(長崎大学原爆後障害医療研究所助教) | 15:50~16:50 | 総合討論
司会: 中嶋 康博
(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授) |
| 14:00~14:25 | 放射性物質の健康リスク: 市民の知覚とリスクコミュニケーションの可能性—新山 陽子
(日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授) | 16:50~17:00 | 閉会の挨拶—濵澤 栄
(日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究科教授) |
| 14:25~14:35 | 休憩 | | |
| 14:35~15:00 | 放射性物質に対する食と農をめぐる消費者意識—安永 円理子
(東京大学大学院農学生命科学研究科准教授) | | |



問合せ先

東京大学農学生命科学研究科アグリコクーン産学官民連携室
e-mail: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp URL: www.agc.a.u-tokyo.ac.jp
tel: 03-5841-8882 fax: 03-5841-8883

東日本大震災に係る食料問題フォーラム2017

公開シンポジウム

東日本大震災によって引き起こされた東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により、福島県を中心に大量の放射性物質が環境中へ放出され、食料資源の生産現場にも大きな被害をもたらしました。この事故からすでに6年が経過し、環境放射能は一部陸域を除き極めて低いレベルにまでなりました。福島県産の農林水産物についても安全モニタリングの普及や自主操業などにより、市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通していませんが、消費者は福島県産の食品に未だ不安を抱えています。そこで本フォーラムでは、いかにして福島県産の食品の安全性を消費者に理解してもらうことができるのか、放射線被ばくと健康、食品の安全性とリスクコミュニケーションに関するテーマを中心に議論し、福島県の農林水産業の復興の加速に資することを目指します。



2017年5月13日(土) 参加費無料 / 事前登録不要
 13:00~17:00 於:長崎大学ポンペ会館

長崎大学坂本地区キャンパス1 (長崎県長崎市坂本1丁目12-4)
 長崎駅より赤迫行き路面電車「浜口町」下車徒歩5分

共 催: 日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、農学委員会農業経済学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同農芸化学分科会、農業情報システム学分科会、食料科学委員会水産学分科会、畜産学分科会、臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント分科会

後 援: 日本農学アカデミー、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、農業食料工学会、日本リスク研究学会、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコウン(act110)、北里大学海洋生命科学部、京都大学リスク研究ネットワーク、長崎大学福島未来創造支援研究センター、長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科

- | | |
|---|--|
| 13:00~13:10 開会挨拶—片峰 茂 (長崎大学長)
主催者挨拶—渡部 終五
(日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部特任教授) | 15:00~15:25 食の流通、安全安心確保とふくしまの今!
—菅野 孝志
(ふくしま未来農業協同組合 代表理事組合長) |
| 13:10~13:35 放射線被ばくと健康リスク:原爆被災からの復興と原発事故からの復興の相違について
—山下 俊一
(日本学術会議第二部会員、長崎大学理事・副学長) | 15:25~15:50 放射性物質の健康リスク:市民の知覚とリスクコミュニケーションの可能性
—新山 陽子
(日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授) |
| 13:35~14:00 環境放射能調査から内部被ばくリスクを考える
—平良 文亨
(長崎大学原爆後障害医療研究所助教) | 15:50~16:50 総合討論
司会:
—山下 俊一
(日本学術会議第二部会員、長崎大学理事・副学長)
—中嶋 康博
(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授) |
| 14:00~14:25 川内村と富岡町での環境放射能汚染測定と内部被ばく評価
—高村 昇
(長崎大学原爆後障害医療研究所教授) | 16:50~17:00 閉会の挨拶—濹澤 栄
(日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授) |
| 14:25~14:35 休憩 | |
| 14:35~15:00 避難指示が解除された地域における環境回復と地域再建の課題
—万福 裕造
(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 本部企画調整部 震災復興研究統括監付) | |

長崎大学福島未来創造支援研究センター
 e-mail: forum2017_food@ml.nagasaki-u.ac.jp
 問合せ
 東京大学農学生命科学研究科アグリコウン産学官民連携室
 e-mail: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp url: www.agc.a.u-tokyo.ac.jp
 tel: 03-5841-8882 fax: 03-5841-8883

東日本大震災に係る食料問題フォーラム2018

公開シンポジウム

東日本大震災によって引き起こされた東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により、福島県を中心に大量の放射性物質が環境中へ放出され、食料資源の生産現場にも大きな被害をもたらしました。この事故からすでに7年が経過したものの復興への道のりはまだ厳しいものがあります。福島県産の農林水産物についても安全モニタリングの普及や自主検査などにより、市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通していませんが、消費者は福島県産の食品に未だ不安を抱えています。そこで本フォーラムでは、6年間の活動を振り返りながら、いかにして福島県産の食品の安全性を消費者に理解してもらうことができるのか、放射線被ばくと健康、食品の安全性とリスクコミュニケーションに関する課題を議論し、福島県農林水産業復興の加速に資することを目指します。



2018年12月21日(金)
13:00~17:00 於: 日本学術会議 講堂

参加費無料/
事前登録不要

主催: 日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会

後援: 日本農学アカデミー、公益社団法人日本水産学会、公益社団法人日本畜産学会、日本農業経済学会、公益社団法人日本農芸化学会、農業食料工学会、一般社団法人日本リスク研究学会、公立大学法人福島県立医科大学、国立大学法人長崎大学福島未来創造支援研究センター、国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコウーン(act122)、学校法人北里研究所北里大学海洋生命科学部、国立大学法人福島大学、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

- | | |
|---|---|
| 13:00~13:10 開会の挨拶
— 濑澤 栄
(日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究科教授) | 水産物の安全に関する現状と課題
— 関谷 直也
(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授) |
| 13:10~13:50 本フォーラム6年間の記録と課題
— 渡部 終五
(日本学術会議連携会員、北里大学海洋生命科学部特任教授)
— 中嶋 康博
(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授) | 15:10~15:40 農業復興のとり組みについて:
農業復興を支える技術開発の現状と課題
— 柁村 恭子
(日本学術会議連携会員、農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門草地利用研究領域放牧家畜ユニット長)
楳葉町における農業復興の現状と課題
— 山内 健一
(楳葉町役場産業振興課兼農業委員会事務局課長補佐) |
| 13:50~14:30 環境放射能レベルと健康影響調査について:
福島県の農業環境における放射性セシウムと作物摂取による内部被ばく線量
— 塚田 祥文
(福島大学教授、環境放射能研究所長)
福島県「県民健康調査」の現状と課題
— 神谷 研二
(日本学術会議第二部会員、福島県立医科大学副学長、放射線医学県民健康管理センター長、広島大学副学長) | 15:40~16:10 休憩および関連研究成果の展示
16:10~16:50 総合討論
— 神谷 研二 — 塚田 祥文 — 柁村 恭子
— 中嶋 康博 — 柳内 孝之 — 山内 健一 |
| 14:30~15:10 水産業復興のとり組みとリスクコミュニケーションについて:
福島県における漁業復興の現状と課題
— 柳内 孝之
(福島県漁業協同組合連合会理事) | 16:50~17:00 閉会の挨拶
— 眞鍋 昇
(日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・人間科学部教授) |

問合せ先

東京大学農学生命科学研究科アグリコウーン産学官民連携室
e-mail: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp url: www.agc.a.u-tokyo.ac.jp
tel: 03-5841-8882 fax: 03-5841-8883



東日本大震災に係る食料問題フォーラム2019

公開シンポジウム

東日本大震災によって引き起こされた東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により、福島県を中心に大量の放射性物質が環境中へ放出され、食料資源の生産現場にも大きな被害をもたらした。この事故からすでに8年が経過し、福島産の農林水産物についても安全モニタリングの普及や自主検査などにより、市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通していないが、消費者は福島県産の食品に未だ不安を抱いている。そこで本フォーラムでは、事故からの8年を振り返り、いかにして福島県産の食品の安全性を消費者に理解してもらうことができるのか、農林水産物の現場における活動および食品の流通から食卓までの安全の取り組みを議論し、福島県農林水産業復興の加速に資することを旨とする。



2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

令和元年**11月30日(土)** 参加費無料/
事前登録不要
13:00~17:00 於: **福島大学 L4教室**
(福島県福島市金谷川1番地)

主催: 日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、国立大学法人福島大学

後援: 日本農学アカデミー、公益社団法人日本水産学会、公益社団法人日本畜産学会、日本農業経済学会、公益社団法人日本農芸化学会、農業食料工学会、公立大学法人福島県立医科大学、国立大学法人長崎大学福島未来創造支援研究センター、国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン(act129)、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、福島県、GAP普及推進機構

司会: 西澤 直子
(日本学術会議連携会員、石川県立大学学長)

魚類の放射能汚染の現状と漁業復興への課題
一和田 敏裕
(福島大学環境放射能研究所准教授)

13:00~13:20 開会の挨拶
一 西澤 直子
(日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授)
一 生源寺 眞一
(日本学術会議連携会員、福島大学食農学類教授・学類長)

15:00~15:40 流通から食卓まで:
食の安全安心確保とふくしまの今!
一 菅野 孝志
(福島県農業協同組合中央会会長)
原発事故後の放射性物質の現状と対応
~生産現場から食卓まで~
一 八戸 真弓
(農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門ユニット長)

13:20~14:00 震災から8年余りを振り返る:
福島大学うつくしまふくしま未来支援センターの取り組み
一 初澤 敏生
(福島大学人間発達文化学類教授、うつくしまふくしま未来支援センター長)
飯舘村で「までの心」を綴る
一 杉岡 誠
(飯舘村復興対策課農政第一係長)

15:40~16:10 休憩および関連研究成果の展示

16:10~16:50 総合討論
一 初澤 敏生 一 杉岡 誠 一 石井 秀樹
一 金子 信博 一 和田 敏裕 一 菅野 孝志
一 八戸 真弓

14:00~15:00 農林漁業復興の現場から:
福島県の農業再生における課題・成果・展望
一 石井 秀樹
(福島大学食農学類准教授)
森林の放射性セシウムの動態と生態学的経済再生
一 金子 信博
(福島大学食農学類教授・評議員)

16:50~17:00 閉会の挨拶
一 眞鍋 昇
(日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・人間科学部教授)

問合先

東京大学農学生命科学研究科アグリコクーン産学官民連携室
e-mail: office@agc.a.u.-tokyo.ac.jp URL: www.agc.a.u.-tokyo.ac.jp
tel: 03-5841-8882 fax: 03-5841-8883



—原子力災害11年の総括と福島県農林水産業の復興—

東日本大震災に係る食料問題フォーラム2022

公開シンポジウム

東日本大震災・原発事故から11年半が経過した。原子力災害を経験した福島県、特に浜通りの地域産業は、事故後の社会変動により生産構造、市場構造が大きく変化した。原発事故とそれに伴う放射能汚染問題は、福島県産農産物のブランド価値を低下させることとなった。震災後10年を機に、避難地域の解除、復興政策の再編、福島国際研究教育機構の設置、ALPS処理水対策などの取り組みが進んでいる。地域がこのような大きな転換点を迎えるにあたって、この間の放射能汚染対策の総括とそれに基づく正確な情報を国内外に発信する必要がある。そこで本フォーラムでは、事故からの11年を振り返り、農林水産業の現場における活動および食品の流通から食卓までの安全の取り組みを消費者や生活者の視点も踏まえながら議論し、福島県農林水産業と地域の復興の加速に資することを目指すこととする。

令和4年
11月19日(土)
13:30~17:00

双葉町産業交流センター
(福島県双葉郡双葉町中野高田1番地1)

対面・オンラインハイブリッド開催
https://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/wp/fg1_221119/



参加希望者は
事前登録を
お願いします



町章ダルマ



太平洋ダルマ

主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会
後援：日本農学アカデミー、公益社団法人日本水産学会、公益社団法人日本畜産学会、日本農業経済学会、公益社団法人日本農芸化学会、農業食料工学会、国立大学法人福島大学、公立大学法人福島県立医科大学、国立大学法人長崎大学福島未来創造支援研究センター、国立大学法人東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター、国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコウーン、東日本大震災・原子力災害伝承館

司会：渡部 終五 (日本学術会議連携会員、北里大学海洋生命科学部客員教授)	15:10	地域の暮らしの11年の総括と展望： —丹波 史紀 (立命館大学産業社会学部教授)
13:30 開会の挨拶 —中嶋 康博 (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)		—橋本 靖治 (双葉町秘書広報課長)
13:40 農業の11年の総括と展望： —小山 良太 (日本学術会議連携会員、福島大学食農学類教授)	15:50	総合討論 —小山 良太 —清水裕香里 —丹波 史紀 —中嶋 康博 —野崎 哲 —橋本 靖治 —八木 信行 —関谷 直也 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環准教授)
—清水 裕香里 (特定非営利活動法人Jin代表)		—那須 民江 (日本学術会議連携会員、中部大学生命健康科学部客員教授)
14:20 水産業の11年の総括と展望： —八木 信行 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)		総合討論司会：葛西 優香 (東日本大震災・原子力災害伝承館常任研究員)
—野崎 哲 (福島県漁業協同組合連合会会長)	16:50	閉会の挨拶 —眞鍋 昇 (日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・人間科学部教授)
15:00 休憩		



問合先 東京大学農学生命科学研究科アグリコウーン産学官民連携室
e-mail: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp url: www.agc.a.u-tokyo.ac.jp
tel: 03-5841-8882 fax: 03-5841-8883



日本農学アカデミー、公益財団法人農学会、
日本学術会議食料科学委員会・農学委員会・東日本大震災に係る食料問題分科会
共同主催 公開講演会

東日本大震災が もたらした食料問題 — 福島県の現状と課題

日時 2023.11.11 (土) 13:00 ~ 17:00

場所 東京大学弥生講堂+オンライン ◎ 参加無料

東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内

会場参加 事前登録不要です。直接ご来場ください。 **オンライン参加** QRコードから事前登録をしてください。



総司会 日本農学アカデミー理事 渡部終五
開会挨拶 日本農学アカデミー会長 生源寺真一
企画説明 東京大学大学院農学生命科学研究科教授 中嶋康博
基調講演 原子力災害と風評被害 —13年目の課題
東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授 関谷直也
第一報告 相双地方における農林業の現状・課題と新しい産地形成に向けて
福島県相双農林事務所所長 小久保仁子
第二報告 農産物における放射能汚染対策12年の総括と科学的知見の蓄積
福島大学食農学類教授 二瓶直登
第三報告 食農連携に向けた福島の取り組みと大学の役割
福島大学食農学類教授 小山良太
コメント 農業生産法人(株)カトウファーム 加藤絵美
東日本大震災・原子力災害伝承館研究員 葛西優香
北海道大学大学院農学研究院准教授 小松知未
総合討論 (ファシリテーター) 中嶋康博 + 全ての登壇者
閉会挨拶 公益財団法人農学会会長 丹下 健

後 援：東京大学大学院農学生命科学研究科 (ACT147)、ワールドウォッチジャパン、福島大学、復興農学会
連絡先：日本農学アカデミー事務局 office@academy-nougaku.jp 公益財団法人農学会 zaidan@nougakkai.or.jp

FUKUSHIMA



過去12年間の総括と 未来に向けて取り組むべき課題

- 克服すべき社会的課題：風評被害
- 地域振興の取り組みと見通し
- 科学的に解明された事実
- アカデミアの「これまで」と「これから」の役割
- 現場での実践から見えてきた課題と期待